

子どもとの楽しい会話

子どもたちとおしゃべりしていると、思いもよらない発言があり、嬉しい気持ちになったり、驚いたりすることがあります。ちょっぴりですがお伝えしますね。



年長児 Sくん

お当番さんの給食のお手伝いが終わりに、エプロンを上から下に脱ぎながら、「おれ、脱皮してる」

さすが虫が大好きなSくん。いつも虫のことを思い、自分と虫を同化させている。かわいくて、一人で笑ってしまいました。



年少児 Sくん

体操教室のある日
保育者「今日は体操教室があります」と言うと、前回の体操教室でどうやったら速く走れるか教えてもらいたのですぐに

Sくん「こうやって走ると速いよって教えてもらった。」

素晴らしいながら、腕を前後に振って見せてくれました。

2週間も前のこと、しっかり覚えていることにも驚きましたが、運動会を楽しみにしていることが伝わってきました。



年少児 Kちゃん

延長保育でおやつを食べる前に「いただきます」と言った後、すぐに口を押さえたKちゃん。

保育者「どうしたの？」

Kちゃん「ごちそうさまっていっちゃった。」

かわいい！！

大丈夫！誰にも聞こえてないよ。



令和 4 年 10 月の園だより



すいこう認定こども園

賢い子どもに育てるために

～井原先生の子育て講座より～

9月5日、静岡県で通園バスに取り残された3歳児が死亡するといった、あってはならないとても辛い事故が起こりました。およそ1年前にも福岡県で同じ事故が起こっており、保育関係者のみならず、保護者の皆さんも「またか。どうして？」と言う思いを持たれたことでしょう。ある報道番組で、「待機児童対策で保育園、認定こども園が次々でき、保育士の育成が間に合っていない。保育士の質が下がっている。」と話していました。何とも言えず、悔しく悲しい気持ちになりました。「保護者の大切な大切な宝ものをお預かりしている」そんな気持ちで私たちは、保育をしております。保護者の皆さんから「すいこうは大丈夫。」と思っただけのよう、一人ひとりのお子さんの尊い命を預かっているという使命感を忘れず、安心していただける保育をしてみたいです。

さて、9月のはじめ、せいあい幼児教育研究所所長の井原忠郷先生に、「賢い子どもに育てるために」というテーマでお話をいただきました。ここ数年、コロナのため、各所で開催されていた子育て講座が中止となり、保護者の方から、「インターネットや育児の本からいろいろ知識を得ることはできるけど、お顔を見て、うんうんと頷きながらお話が聞けることが嬉しい」と言うお声をいただき、参加者は少なかったのですが、とても有意義な時間となりました。井原先生のお話は、とてもわかりやすいお話でしたので少しですがお伝えします。

賢い子どもを育てるための3つの条件。

1. 正しい言葉を使う

言葉というものは、自分の思いを相手に伝えることができる大切なものです。日常の小さな喜びや発見したことを言葉にして伝えることが必要です。例えば、登園途中にお花を見つけたら、「きれいなお花が咲いてるね。」と、言う子どもは、「これがきれいなお花なんだ。」と感ずるのです。お花の名前を聞かれたら、「なんていう名前か一緒に調べてみようか」といって、その場で教えてあげることが必要ないのです。また、「おいしいね。」と、話しながら食事をするとお子さんは、自然と笑顔になり、食事すすむことでしょう。一言ひとことに心を込めて、良い言葉をお子さんの耳に届けましょう。良い言葉は、絵本の中にたくさんあります。読み終わったら、

「おもしろかったね。」と絵本の楽しさを共感してあげましょう。周りの大人がたくさん綺麗な言葉を耳に届けてあげれば、乱暴な言葉を使うことはないでしょう。

2. けじめをつける

けじめとは、切り替える力、または、集中力のことで、す。けじめは、生活と切り離すことができません。小学校に入ってから「今は、一生懸命遊ぶ時間、これからは、勉強する時間」と、気持ちを切り換えることが必要です。けじめが身についているお子さんは、食事にも時間がかかりません。食べることに集中できるからです。それぞれのご家庭で基本的な生活のリズムを大切にしていますか？眠る前にゲームをして興奮しては、大脳の眠る準備ができず、いつまでも眠れないのです。保護者もけじめのある生活を送るように努力しましょう。

3. 安定した家庭生活

安定した家庭であるためには、夫婦仲が良いことが一番大切なことです。もし、お子さんが「お父さんの一番好きな人は誰？」と聞いてきたら、迷うことなく、「お母さんだよ。」と教えてください。お母さんに聞いてきたときも一緒です。お子さんは、自分の名前を言ってくれと思っているのに「お母さんが一番好き」と言われても、なんとも言えない嬉しそうなお父さんとお母さんを見ているはず。また、子どもたちは、家庭の外でたくさんの経験をしてきます。楽しいこと悲しいこと、それらをじっくり聞き、嬉しい気持ち、悲しい気持ちを共有できる家庭でなくてはなりません。訳あってシングルでもお子さんが安心して今日あったことを話し、甘えることのできる家庭を作ることを心がけましょう。何より、「OOちゃん、可愛いね。」「大好きだよ。」そういう言葉を子どもたちはいつも聞きたいのです。周りの大人の姿を見て、自分は愛されているのか感じているのです。

以上のような内容でした。そして最後に、「決して無理をせず、それぞれのご家庭でできることから始めましょう。」と話されました。困ったこと、嬉しいこと、何でも保護者の方が呟ける、そして、保護者の方と思いを共有できる園となるよう努めてまいります。

10月は、何をすることも気候の良い時です。子どもたちとたくさんの秋を満喫したいと思っています。

園長 上原玲子

秋の夜長を楽しもう



秋といえば、やっぱり月。

空気が澄み、月がひととき美しい季節です。月は、満ちたり、欠けたりと日に日に替わっていきます。「9月の十五夜を見逃してしまった！」という方。大丈夫です。10月8日は、十三夜といい、これもとても美しい月です。

親子で秋の空を眺めながら、最近の出来事などを話してみましょう。そんな余裕の時間が持てると、心もほっとしますね。



秋といえば、やっぱり読書。

今年の読書週間は、10月27日から11月9日です。良い本が広く読まれることを目的として作られたといわれています。

素敵な本にたくさん出会えるといいですね。



秋のおすすめ絵本

おつきみおばけ



パパ、お月さまとって!



じゃがいもポテトくん

